

< 第 18 節終了時点順位表 >

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	駒 澤 大 学	13	3	2	36	17	+19	41
2	流通経済大学	12	2	4	38	17	+21	40
3	早 稲 田 大 学	10	4	4	39	20	+19	34
4	明 治 大 学	9	4	5	34	17	+17	32
5	法 政 大 学	9	7	2	29	25	+4	29
6	東京学芸大学	6	6	6	18	17	+1	24
7	中央 大 学	7	8	3	21	33	-12	24
8	国 土 館 大 学	6	8	4	28	30	-2	22
9	順 天 堂 大 学	6	10	2	25	26	-1	20
10	筑 波 大 学	4	11	3	24	33	-9	15
11	専 修 大 学	2	11	5	19	45	-26	11
12	東京農業大学	2	12	4	14	45	-31	10

得点ランキング

- 14 ゴール 渡邊千真(早 大)
- 10 ゴール 小川佳純(明 大)
- 9 ゴール 兵藤慎剛(早 大)
- 荒田智之(専 大)
- 8 ゴール 巻 佑樹(駒 大)
- 7 ゴール 柏 好文(国士大)
- 伊藤大介(順 大)
- 難波宏明(流通経大)

アシストランキング

- 8 アシスト 本田拓也(法 大)
- 塚本泰史(駒 大)
- 7 アシスト 巻 佑樹(駒 大)
- 平木良樹(流通経大)
- 6 アシスト 船山祐二(流通経大)
- 小川佳純(明 大)
- 5 アシスト 山本椿斗(早 大)
- 瀬田貴仁(東学大)

巻の劇的ゴールで勝利を手にし、首位をキープした前節。迎えた今節は、天皇杯予選で5失点を喫って敗北した法政大。監督が前々からここが勝負所と選手達に語っていた相手にリベンジなるか。

試合開始から駒大は、いつも通りロングボールを前線に入れて攻撃を組み立てようとするが、巻が相手DFに徹底的にマークされていてなかなかチャンスを作れない。一方、法大も中心選手の本田拓を出場停止で欠き、自慢のパスワークが影を潜める。時折変化をつけて縦パスを入れてくるが、駒大が集中した守備をみせ、相手に仕事をさせない。前半は慎重に試合が進み、お互いあまり良い形を作れないまま終了。しかし監督曰く「前半を0対0で折り返したのは予定通り」とのこと。

後半は監督が「点を取らないと上には行けないから攻めよう」とロケットルームで鼓舞したおかげが、序々に良い形を作り始める。迎えた65分、塚本の右CKを廣井が右足でうまく合わせ、遂に駒大が先制点をあげる。1点リードしてからは、焦る法大を尻目に試合をコントロールする。時折ある相手の攻撃も、体を張った粘り強い守備と、「今日は意地でも点を取られなかつたし前回負けかけているのでどうしても今日は勝ちたかった」と語ったGK三栗の好セーブでゴールを割らせない。そして試合はこのまま1対0で終了。追加点こそ奪えなかったが、塚本が「点を取られなければ負けることはない」と語るように駒大の試合巧者ぶりが光る手堅い勝利で見事リベンジ達成。

この勝利により首位をキープすることに成功したが、監督は「まだ4試合残っているのでどうなるかわからない。今はたまたま上にいるだけ」と警鐘を鳴らした。しかし前回の対戦で5失点した相手に、無失点で勝利したことは誇りに思っている。また、監督が勝負所と睨んだ試合で勝利を手にした事で選手達は自信も得ただろう。残り4試合油断は禁物だが、自分達のサッカーに自信を持って戦えば、優勝を手にする事ができるだろう。(中野成博)

- 【右】前節にスタメン出場を果たした市川
- 【中央】アシストランキングトップと並んだ塚本
- 【左】大臣杯以来約3ヶ月ぶりの出場となった八角



この日もセットプレーから！

この試合、唯一の得点は塚本のCKを廣井が合わせて生まれた。前節もロスタイム、塚本のCKから巻が決めての劇的勝利。後期に入りセットプレーからの得点が増えている。その要員は巻、廣井、菊地といった空中戦に滅法強い選手がいること、そしてなんといっても塚本の精度の高いキック。セットプレーからの得点は全て塚本の右足から生まれている。塚本は後期だけで1試合1アシストペースの7アシストをマーク。これからも巻、廣井、菊地の空中戦、塚本の正確無比のキックがある限りセットプレーは脅威となるだろう。



【上】試合後、スタンドに挨拶する選手